

町内3中学校で卒業式 卒業生232人が学びやを巣立つ

町内3中学校の卒業式が3月11日に行われ、暖かな春の日差しの中、9年間の義務教育を終えた卒業生232人が思い出がいっぱい詰まった母校を巣立ちました。保護者や在校生から温かい拍手で迎えられ、校長先生から一人ひとりに卒業証書が手渡された卒業生。卒業の喜びと恩師の別れをかみしめながら、不安と期待を胸に、それぞれ新しい進路へ進み始めました。



↑ 学校生活の思い出がよみがえり、涙をぬぐいながら合唱する金田中の卒業生。

↓ 細かい線を刻む緊張のひととき。手間をかけた分、仕上がりの喜びは格別です。



児童センター 消しゴムはんこづくり 作って使って2度楽しい手作りアイテム

3月27日に児童センターで「消しゴムはんこづくり」が行われ、町内の親子40人が参加しました。講師の安永裕希子先生から作り方の説明を受け、下絵を消しゴムにうつし、彫刻刀を使って彫っていく参加者たち。余った消しゴムで2個目、3個目をアレンジを加えて作る人も多く、約2時間半、集中力を絶やさず、思い思いの作品づくりを楽しんでいました。

福智町文化連盟5周年記念誌創刊 5年の節目に綴った「あゆみ」

福智町文化連盟の発足5周年を節目とした記念誌が3月末に発行されました。10人の編集委員が構成を考え、9か月前から10回の会議を経て完成した記念誌「あゆみ」。「展示」「音楽」「芸能」「歌謡・詩吟」「一般教養」の5部門の活動が24ページにわたって紹介されています。約100団体、1千600人で組織する文化連盟の思いが詰まった一冊に仕上がりました。



↑ 出来たての冊子に手にほほえむ渡正之会長（前列右）ほか編集委員のみなさん。

↓ 吹奏楽部と三浦さんがセッション。初めてとは思えない、息が合った演奏でした。



方城中でクラシックコンサート クラシックの美しい調べを堪能

世界をまたにかけて活躍するバンドネオン奏者の三浦一馬さんとピアニストの永田郁代さんによるコンサートが、3月7日に方城中で開催されました。生演奏3曲を鑑賞した生徒約160人は、バンドネオンが織りなす繊細で心地よい音色を堪能。「素晴らしい音色が心に響き、感動しました」と感想を話し、世界トップレベルのテクニックに酔いしれていました。

↓ 12 m先にある的をめがけて、真剣に円盤を投じる参加者。各試合で激戦が繰り広げられました。



第5回福智町カローリング大会 カローリングで世代間交流

町体育協会主催の「カローリング大会」の決勝が3月6日に金田体育館で開催されました。カローリングは氷上で行うカーリングの屋内版で、ローラー付きの円盤を的に向かって滑らせる競技。子どもからお年寄りまで楽しめるため、5回目を迎えた今回まで毎年参加者を増やしています。事前に行われた地区予選には117チーム（赤池45、金田42、方城30）が参加。決勝には36チームが駒を進めました。結果は、優勝：四区A（金田）、準優勝：月光（金田）、3位：たかちゃんズ（方城）、4位：神崎二A（金田）

虎尾桜観賞会と自然・史跡満喫会 偉大な福智山の魅力を味わう

「虎尾桜を心配する世話人会」主催の虎尾桜の観賞と福智山の自然・史跡を巡る登山が3月27日に行われました。参加者20名は、弘法岩や鷹取城跡、虎尾桜など福智山に点在する貴重な史跡と雄大な自然を約4時間かけて観賞。残念ながら虎尾桜の満開は4月上旬の予測で、つぼみの状態での観測となりましたが、上野峡散策を思う存分満喫していました。



↑ ツバメ岩の説明に聞き入る参加者。初めて知る内容に、終始感心していました。

↓ 稚魚が入ったバケツをゆっくりと傾け、再会に期待しながら放流する生徒たち。



彦サケの稚魚を放流 彦山川が母なる川になることを願って

「サケの稚魚の放流」が3月5日に市場小前の河川敷で行われました。赤池中1年生やひこさんがわ夢の会など約120人が参加。国交省職員による彦山川の説明や清掃活動などで川の重要性を学んだ後に、稚魚約2千匹を放流しました。参加した生徒は「大きく育て、戻ってきてね」と稚魚に優しく話し掛け、成長して再会できることを期待しているようでした。